

平成25年3月期

第2四半期決算説明 参考資料

平成24年11月7日



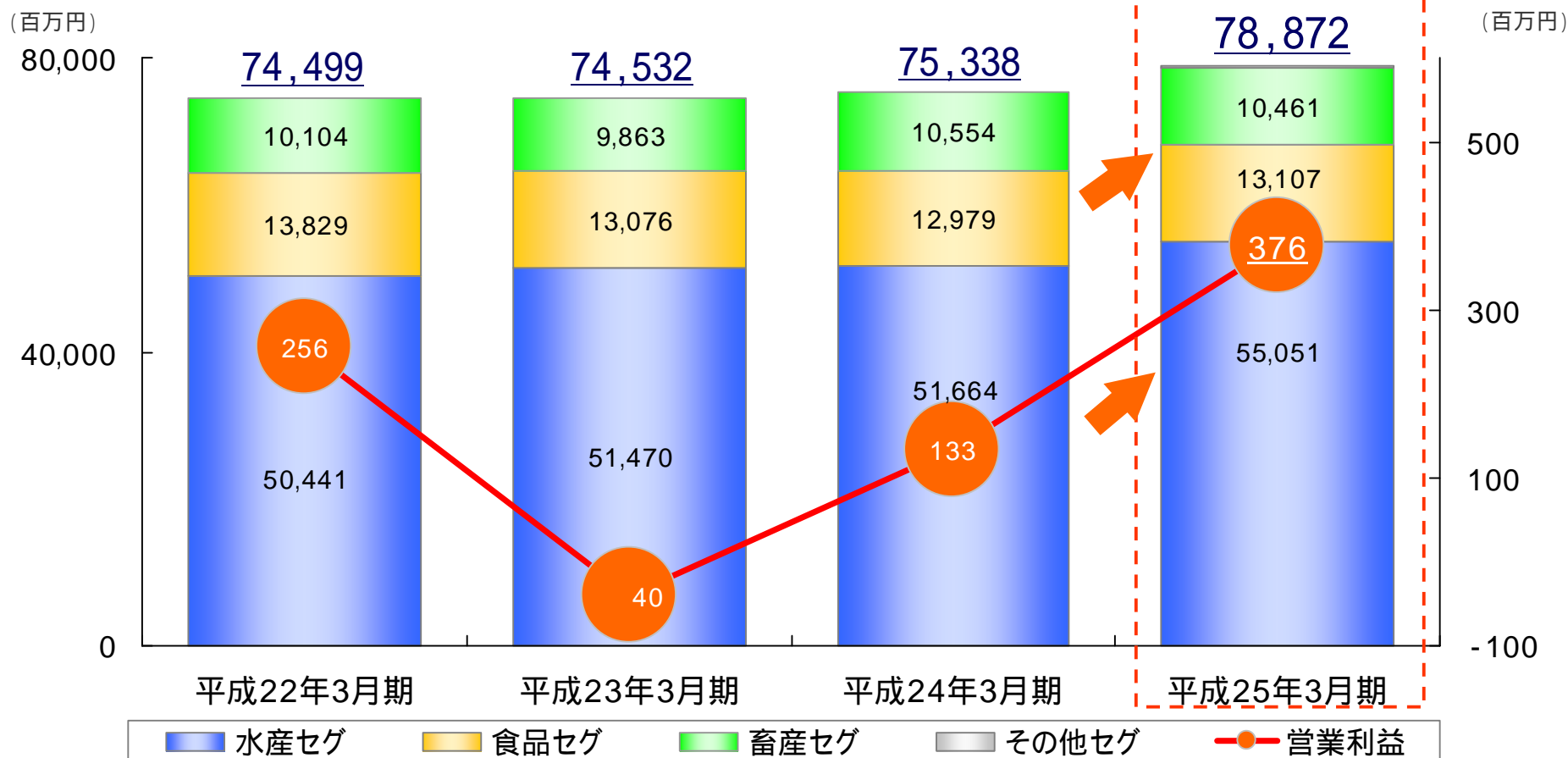
目 次

1. 第2四半期累計 連結売上高及び営業利益の推移	・・・	P3
2. 平成25年3月期の連結業績推移	・・・	P4
3. 連結キャッシュフローの推移	・・・	P5
4. 連結ROAの推移	・・・	P6
5. 水産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移	・・・	P7
6. 一般食品事業セグメントの売上高及び営業利益の推移	・・・	P8
7. 畜産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移	・・・	P9

1. 第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移

■ 当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、2013年度を目標年度とする中期経営計画「Cキューブ-2013」に基づき、「新たな需要創造、新たな顧客創造」に向けた成長戦略を着実に推進する一方、「事業構造改革」によるコスト削減を進めてきた中で、前期対比増収、且つ増益を達成することができました。

第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移



2. 平成25年3月期の連結業績推移

- 売上高は、当社の強みであります生鮮を基軸としたフルライン機能をさらに活かす成長戦略の推進により、788億72百万円(前年同期比4.7%増加)と前年同期に対して35億34百万円の増収となりました。
- 利益面は、増収による利益増に加え、拠点機能再編による機能のネットワーク化と一元化を継続して進めるなど、効率化による生産性向上とコスト削減により、営業利益3億76百万円(前年同期比182.1%増加)、経常利益5億86百万円(前年同期比72.9%増加)、四半期純利益3億21百万円(前年同期比97.3%増加)といずれも増益となりました。

平成25年3月期第2四半期連結累計実績

単位:百万円

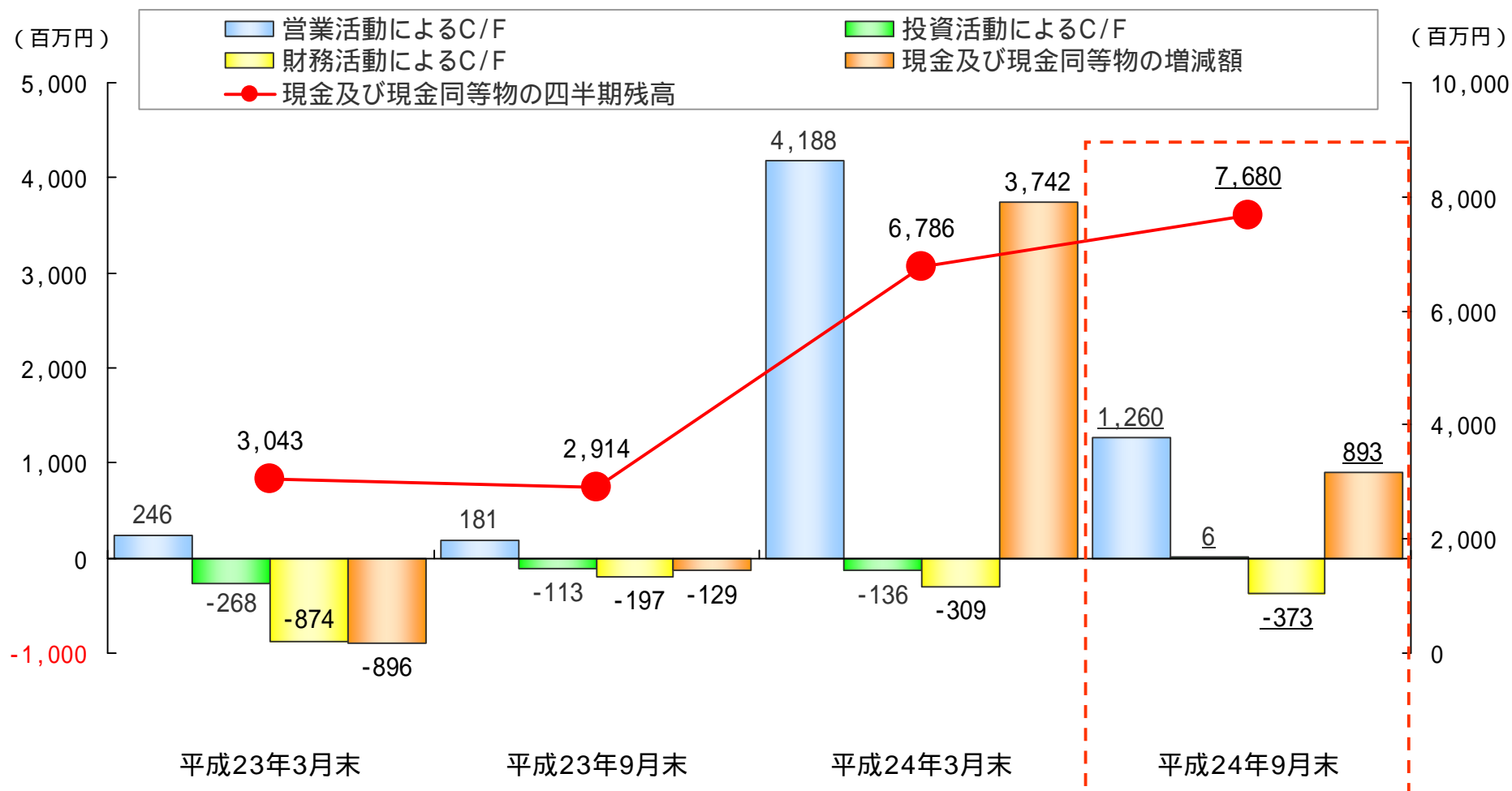
	第1四半期			第2四半期累計			通期 予想
	実績	前年比	前年増減	実績	前年比	前年増減	
売上高	38,595	106.5%	2,344	78,872	104.7%	3,534	157,000
営業利益	89	増188	188	376	282.1%	243	750
経常利益	199	689.7%	171	586	172.9%	247	1,150
当期純利益	93	増102	102	321	197.3%	159	600

平成25年3月期の通期業績予想につきましては、平成24年5月10日発表から変更はございません。

3. 連結キャッシュフローの推移

■ 当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は76億80百万円となり、前連結会計年度末と比較して8億93百万円の増加となりました。

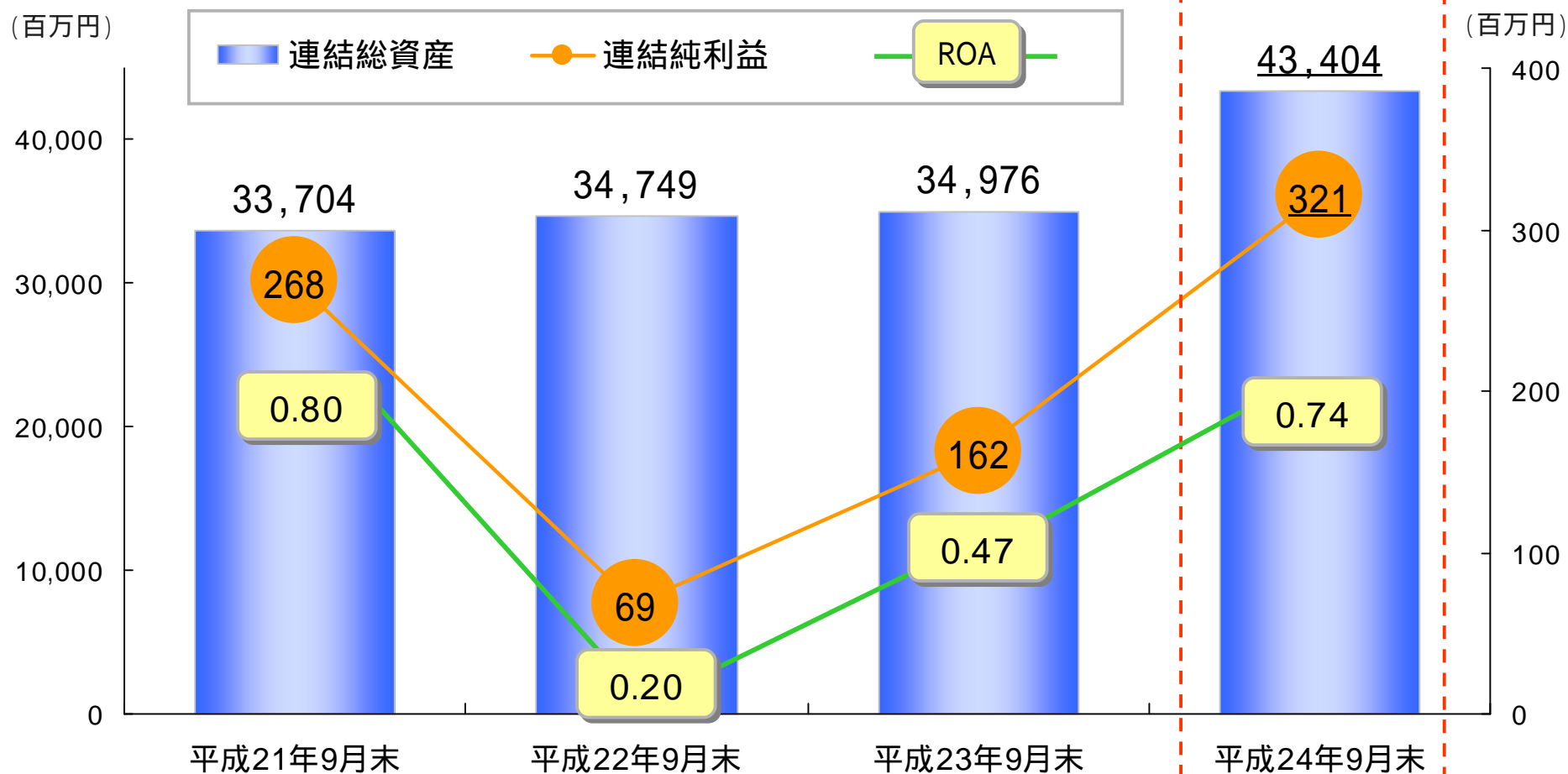
連結キャッシュフローの推移



4. 連結ROAの推移

- 当第2四半期連結会計期間末における連結総資産は434億4百万円となり、前連結会計年度末と比較して21億14百万円の増加となりました。これは主に「現金及び預金」「受取手形及び売掛金」「商品及び製品」が増加したことによるものです。

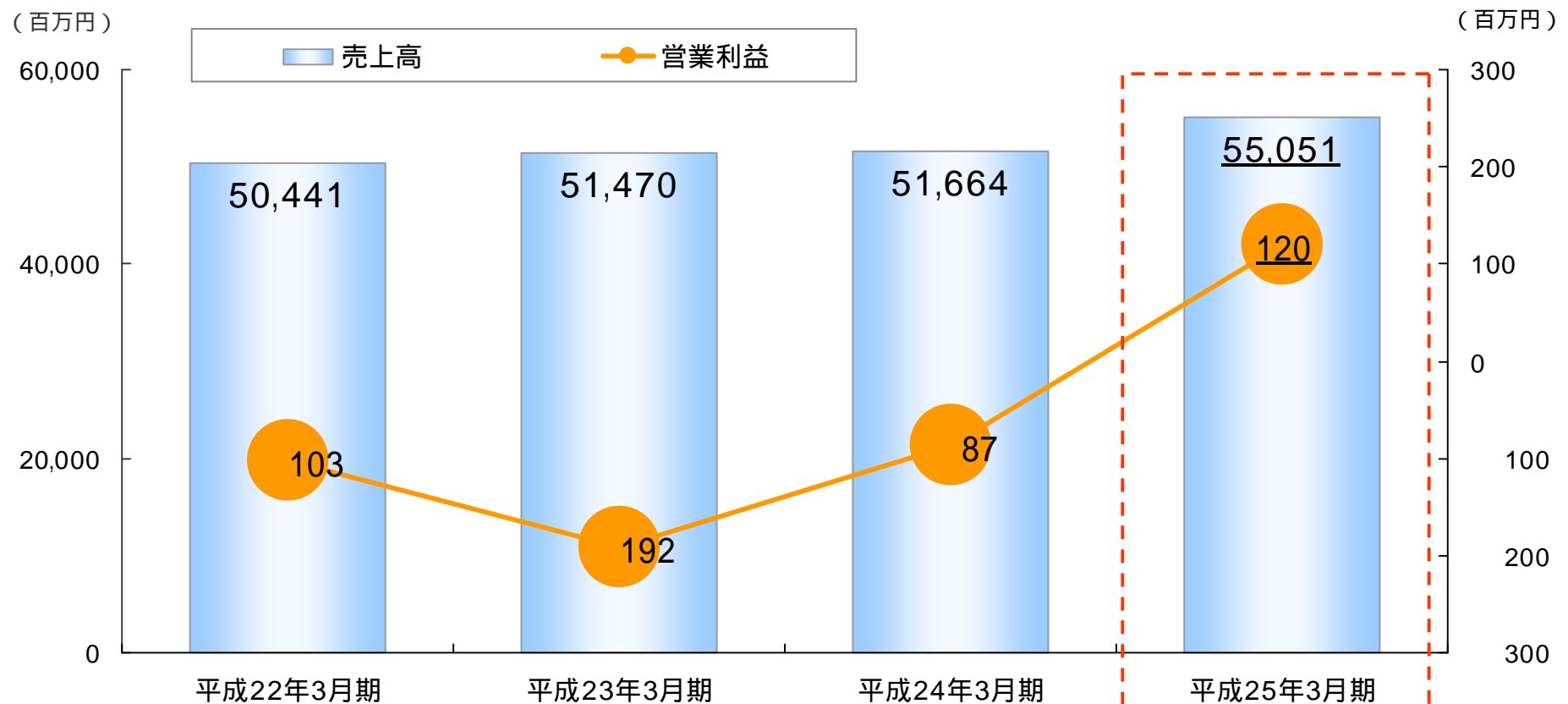
第2四半期連結ROAの推移



5. 水産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移

- 売上高は、大衆魚の売上が好調に推移したことに加え、養殖魚インテグレーションによる売上拡大と、フードサービス事業による惣菜マーケットへの販売強化と子会社(株)ナガレイとの機能連携による外食マーケットへの販売拡大により、前年同期に対して33億87百万円の増収となりました。
- 利益面は、売上高の拡大に伴う売上総利益額の増加と、拠点機能再編の推進によるコスト削減効果により、営業利益は前年同期に対して2億7百万円の増益となりました。

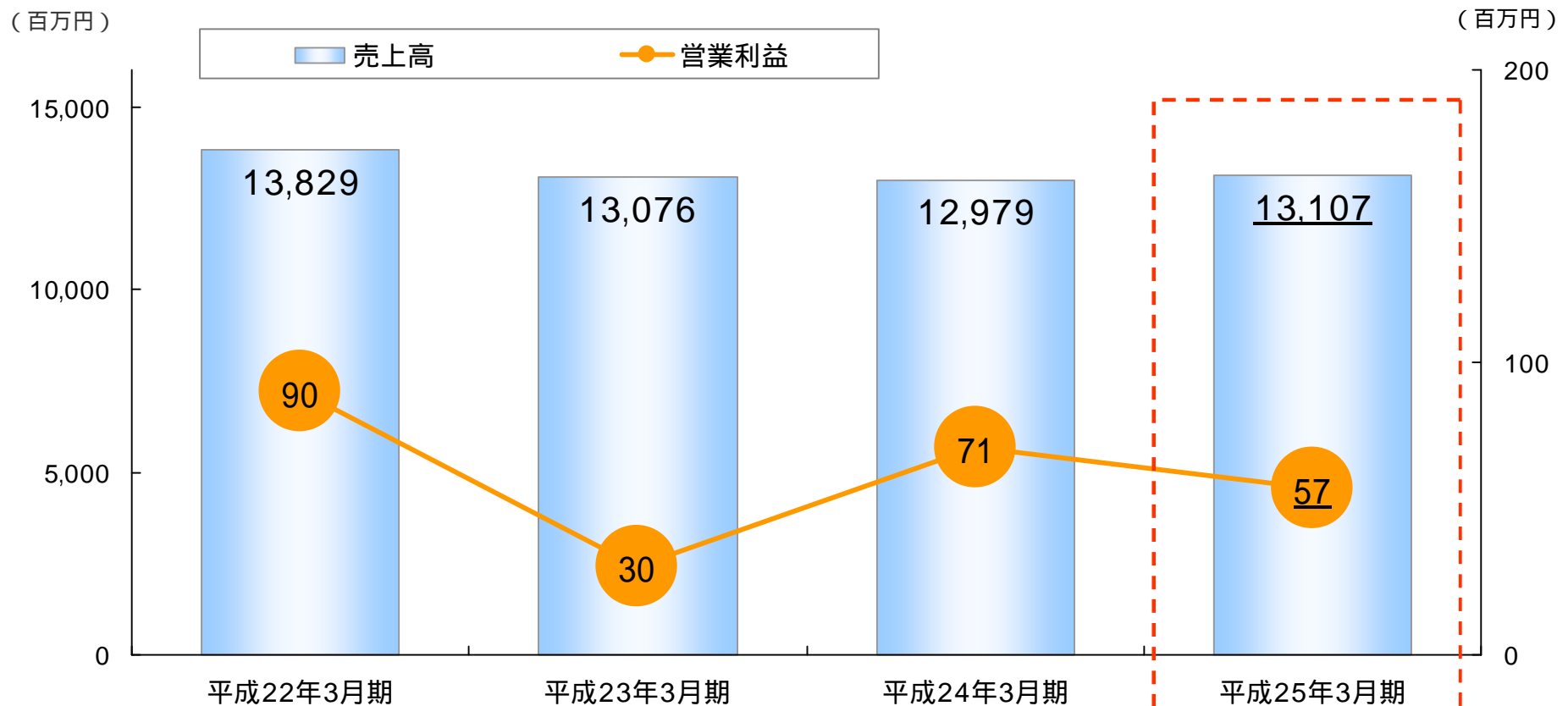
第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移



6. 一般食品事業セグメントの売上高及び営業利益の推移

- 売上高は、基盤商圈における地域小売業への付加価値提案営業によるマーケットの深耕化を、小売店支援を事業とする子会社AES(株)と連携して推進したことにより、前年同期に対して1億28百万円の増収となりました。
- 利益面は、店頭での低価格競争の影響により販売価格が低下し、管理費等のコスト削減に努めたものの、営業利益は前年同期に対して14百万円の減益となりました。

第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移



7. 畜産事業セグメントの売上高及び営業利益の推移

- 売上高は、豚肉・鶏肉の相場下落により販売価格が低下したことから、前年同期と比較して販売数量は上回ったものの、売上金額が減少し、前年同期に対して93百万円の減収となりました。
- 利益面は、「りんご和牛信州牛」、「信州米豚」、「信州ハーブ鶏」など、当社オリジナル商品の調達および販売の拡大と、管理費等のコスト削減を図ったことにより、営業利益は前年同期に対して32百万円の増益となりました。

第2四半期累計連結売上高および営業利益の推移

